

【質疑応答】

≪令和3年度広島県児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等調査結果速報について≫

読売新聞 配付資料の中でですね、体力テストの結果を配付していただいているのですが、たしか去年は〔調査を〕やっていないのですよね、コロナ禍で。ということは、コロナ禍で初めての体力テストということになるのですが、この結果を見たら、高校2年生の女子以外は全て前回〔の調査結果〕を下回っているということと、あと、スポーツを好きと回答した児童生徒の数が増えてはいない、増える方が望ましいと思うのですけれども、増えてはいない。この二つについて、やはりこのコロナ禍の影響があると県教委としては分析なさっているかどうか、これについて伺いたいと思うのですが。

教育長 コロナの影響は、ないとは言えないと思っております。やはり、かなり行動制限がかけられたり、部活動〔の休止〕とか、あるいはステイホームと、おうちにいるというようなことがありましたので、この結果が出ているかと思っております。と申しますのは、この中でやはり一番値が低くなっておりましてのが〔資料の〕4ページ目でございますが、「テスト項目別前回（令和元年度）平均値との比較」でございます。これを見ていただくと、この〔前回結果を下回っている項目として〕三角印が付いているのが上体起こし、いわゆる腹筋です。それからあとシャトルラン。こちらの方もかなり前回よりも下回っている項目で、男女問わずあるいは年齢問わず、こういう結果になっております。この上体起こしにしてもシャトルランにしても、やはり常に積み上げですので、ずっとやり続けてないと〔体力の維持向上が難しい〕。私たちがそうですけど、腹筋一日やったらすごい腹筋がつくというということではなくて、毎日毎日積み上げてないとなかなか難しいということがあると思えます。そういう意味では、コロナ〔による活動制限〕が大変関係しているのではないかと思います。なお、高校2年生の女子生徒だけが結果としては望ましい結果になっているのは、一時〔調査開始当初から〕、女子児童生徒の平均値が低いと〔いうことで体力低下が課題となっていました〕。これ、〔調査を開始したのは〕平成23年度でしたっけ。そのため、学校の方でも女子を中心に取組が行われていまして、そういう点では、結果として出てきたかなと思っております。ただ、今回のこの結果を踏まえまして、また担当課あるいは学校の方でも、〔今後、〕施策を打っていかねればいけないかなと思っております。

読売新聞 具体的にはどのような方策でこの改善を図られるか、今決まっていることありますか。

教育長 これから学校とかですね、あるいは教科の方、ただやはり体育〔に関する指導〕というのも、生涯にわたって楽しむ運動、こういうような感覚とか〔スポーツに親しむことができる〕資質・能力を養うというように時代的に変わってきていますので。例えばダンスとか、楽しく体を動かす、あるいは運動する〔ことを広める〕というような施策〔の充実〕が必要なのかなと思っております。

読売新聞 楽しく体を動かせるにはどうしたらいいかはこれから、担当課や学校現場と一緒に話し合っていくという感じですかね。

教育長 はい、そのように考えております。